

## 『社会言語科学』特集論文募集のお知らせ

学会誌編集委員会では、以下の要領で特集「対人コミュニケーションに関する定量的実証研究」（エディター：小川，榎本，太幡）の論文を募集いたします。特集に投稿された論文は、通常の投稿論文と同じく、査読を経て掲載が決定されます。

なお、特集では最終投稿期限が設定されていますのでご注意ください。投稿論文は基本的に投稿され次第、査読作業に入ります。したがって、より早く投稿された論文ほど、査読が早く済み、論文を修正する機会が多くなります。最終投稿期限は特集論文の投稿を受け付ける最終期限という意味ですので、早く投稿できる方は早めに投稿されることをお勧めします。刊行時期までに採用とならないときは、特集号以外の号に掲載されることもありますのでご了解ください。

特集論文の最終投稿期限：2011年12月9日（金）〔郵送の場合消印有効〕

掲載号の発行：2012年8月（第15巻第1号に掲載予定）

特集論文の投稿先：

E-mail：edit06@jass.ne.jp

郵送：〒169-0075

東京都新宿区高田馬場4-4-19

（株）国際文献印刷社内

社会言語科学会担当

\* 投稿に際しては、メールの件名あるいは封筒の表に「特集投稿論文」と明記してください。

---

タイトル：対人コミュニケーションに関する定量的実証研究

担当エディター：小川一美（愛知淑徳大学）

榎本美香（東京工科大学）

太幡直也（常磐大学）

本特集の目的は、数量的データに基づく対人コミュニケーションの実証研究を編纂することで、改めてコミュニケーション研究の行方についての洞察の礎を築くことである。

コミュニケーション力の必要性が声高に叫ばれたり、対人関係のトラブルという観点から他者とのコミュニケーションが注目されたりするなど、改めて対人コミュニケーションというものが人々の関心事となりつつある。大坊（2009, 2010）は、個人、社会のwell-beingの最も重要な基盤となるものは、対人コミュニケー

ションを適切に行う能力やスキルであるとしている。今回の特集では、well-beingの希求という人間にとっての重要課題と密接に関連している“対人コミュニケーション”を改めて見つめ直してみたい。

二者間の相互作用である対人コミュニケーションに関しては、社会言語学、社会心理学、社会学、コミュニケーション学、認知科学など、様々な分野の研究が蓄積されてきている。本誌においても、「コミュニケーションの社会言語科学（2003年）」「相互行為における言語使用：会話データを用いた研究（2008年）」「相互作用のマルチモーダル分析（2011年）」などコミュニケーションの様々な側面に焦点をあてた特集が生まれ、コミュニケーション研究は興隆を迎えつつある。しかし一方で、コミュニケーションの中で表出される行動を数量化し、その行動の理解・説明・予測・制御を目的とする研究は体系だててなされていない。理論研究、事例研究、質的研究から得られた知見を発展させ、事象の背景に存在する要因を明確にしていくことは、社会言語科学の発展にとって必要不可欠であると考えられる。そこで、量的データに基づく研究を特集することで、対人コミュニケーションという事象に多方法からアプローチしていく際の量的研究の特徴や位置づけ、役割などについて考えていきたい。本学会が研究成果の公表および、学会内外の人々へ議論を呼びかけるために刊行した「講座 社会言語科学」の「第6巻 方法」の中で伝・田中（2006）は、社会言語科学は関連諸学問の複合体であり、複合体であるからこそ様々なアプローチが存在するが、互いのアプローチを認め、領域間で相互作用することによって社会言語科学が学際分野として更なる発展を遂げられると述べている。今回の特集号が領域間での相互作用のきっかけになることを期待している。

本特集では、コミュニケーションデータの観察や心理実験、質問紙調査によって得られた外顕的行動、ならびに、脳波や心拍数などfMRIやポリグラフなどを用いて得られる内潜的行動の数値データに基づき、対人コミュニケーションの中で見られる行動の理解・説明・予測・制御を明らかにする実証研究を募集する。これは、単なる数値データの統計的検定がなされているだけの研究を意味しない。対人コミュニケーションで実践される行動の法則や因果関係など研究で解明すべき仮説が明示され、それが反証可能性や再現性が保証された手続きによって実証されている研究を取り上げたいと考えている。

#### 引用文献

- 大坊郁夫（2009）. well-beingの心理学を目指す—社会的スキルの向上と幸福の追究— 対人社会心理学研究, 9, 1-32.
- 大坊郁夫（2010）. well-beingを目指す対人コミュニケーションの研究 電子情報通信学会技術研究報告, 109(457), 35-36.
- 伝 康晴・田中ゆかり（編）（2006）. 講座社会言語科学 第6巻 方法 ひつじ書房